

令和6年春

八坂神社太々神楽

令和6年2月25日奉納

だいだいかぐら

八坂神社太々神楽とは

当社の太々神楽は江戸時代からの古い伝統を有し、多くの氏子たちによって受け継がれてまいりました。特に面は寛政年間の初演以来のものが今も多く使われ、昭和43年には宇都宮市無形文化財に指定されました。演舞の内容は、古典における神話や伝説、民話などから題材をとって、邪悪なものや災害を追い払い、農作物の豊穰を祈ると共に、土に根ざした日本民衆の世俗性豊かな素朴さや平和への祈りを伝えています。

本日の演目

- ① 国定めの舞（くにさだめのまい）
（神楽開始時の祓いの舞で、素朴で大きな幣束をもって神楽殿を清める）
- ② 猿田彦〈天狗〉の舞（さるたひこのまい）
（道あけの神事を主題とする舞で、大剣をもって天地四方を切り開き、四海を平定鎮魂する）
- ③ 二神の舞（にじんのまい）
（二神〔天津神、国津神〕が、互いの名を問い、名を名のりあう口上のあと、天地が和合して万物が生まれることを象徴して舞う）

- ④ 三狐の舞（さんこのまい）
（農民や漁民の生産についての苦勞と喜びを風刺し道化でユーモアに富んだ爽快な舞）
- ⑤ 鉾八幡〈玉取り〉の舞（ほこはちまんのまい）
（鬼と宝玉を取り合う勇壮活発で雄偉な舞）

・・・休憩・・・

- ⑥ 天の岩戸の舞（あまのいわとのまい）
（いわいる天の岩戸開きの舞で、鈿女等神々のあとに手力男命の雄渾な舞が続く）
- ⑦ 稻荷の舞（いなりのまい）
（五穀豊穰を祈りながら田んぼを耕し、種をまく様子を舞にしたもの）
- ⑧ 大蛇の舞（おろちのまい）
（一人残った娘と父の別離の様子と、荒れ狂う八岐の大蛇と鐘旭の戦、退治後のヒョットコの道化ぶりの三つの構成からなる舞）
- ⑨ 山の神の舞（やまのかみのまい）
（山の神が、一日の神楽をおさめる舞）

八坂神社太々神楽 《練習生募集》

詳細は神社 社務所までお尋ねください。

今泉八坂神社 鎮座地・宇都宮市今泉 4-16-28

TEL 028-621-0248 FAX

028-627-5183